

第171話 教育の機関「私塾と寺子屋③」 中山町歴史散策

子女の教育については、封建社会では当然ですが、男子の教育より軽んじられていました。一般的には家庭において、訓育を受けながら、裁縫を主に行儀作法を学ぶのが当たり前でした。達磨寺には、その師の多田つる子の酬恩碑が、大正年間になって旧門弟によって建てられています。

このほか、生活に余裕のない家庭では、子女を奉公に出し、幾ばくかの年雇の賃金を受け取るか、借入金の一環として奉公させられるのが当たり前でした。雇入れた家によっては、芸事、躰、裁縫、調理、行儀礼法などをつけたところもあって、『女大学』や『女今川』の一部、または雇主の子女に与えられた書物に触れる機会もあったと思われます。

なお、当町のような農村地域では、農民を対象とした『百姓往来』がありました。

これは、明和3年（1766年）の刊行で、幕府の意向が強く、労働と耐乏を説き、

年貢の皆済こそ農民の務めであることを筋立てに、農民の暮らし、特に生産について読み書きのできることを狙って書かれています。

したがって、これは都市部の寺子屋が、町人として商売繁昌、家業繁栄のための心得を説いたものとは、基本的に違うものでした。

【用語説明】

『女大学』…江戸時代に女子一般の修身書として仮名文で記し広く用いられた。

『女今川』…女子の訓戒となることを漢字交り仮名文で記した往来物。

往来物…鎌倉・室町時代から明治・大正時代に至るまで初等教育用に編集された教科書の総称。

※引用

中山町史 中巻
第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.38



協力隊の稲垣です。今回も前々号に続き、5月に行われたパネル展示のアンケート（未来での活用方法編）についてです。

全6項目の中でも、希望する項目として一番多かったのは「柏倉家で様々な体験学習をしたい」、次いで「歴史や文化、習慣や自然を知りたい」など知らないことを学べる場所としての期待が高く、そうした活用方法を軸にすることが有効だと考えられるでしょう。

そして数に違いはあれど、具体的な設問にも抽象的な設問にも1票入ったことは個人的に予想外でした。特に「柏倉家の現状をこまかく知りたい」という意見があることは、関係者として大変参考になりました。「お話しできる機会や交流の場」という点では、既に「岡縁里」さんもありますが、「アクティビティなど、なにか活動をしたい」という意見と合わせて、三島神社や岡地区をどのように周遊するか、検討していく意義があります。

一方で、こうした活用が現在選択肢として考えられることも、柏倉家が多くの方々によって今まで守り受け継がれてきたからこそです。柏倉家に限らず、町内、県内のどんな文化財も確実に保護しながら、適切な範囲で活用を考えていきましょう。山形県民にとってなじみ深い山寺や出羽三山のように、柏倉家も親しまれる存在になれるよう、これからも皆さんと協力しながら活動していきます。

皆さんが、柏倉家住宅が将来こんなふうに関心を持っていたら「いいな」と思う活用方法にシールを貼って、教えてください。 ※いずれも中山町で計画しているものではありません。		
柏倉家や地域の歴史文化、昔の民家や習慣、自然を知りたい	柏倉家でいろんな人とお話や交流がしたい	その時その時の、柏倉家の現状がどうなっているのを知りたい
●●●●●●●● ●●●●●●	●●	●
柏倉家やその周辺でなにかアクティビティをしてみたい	柏倉家で様々な体験学習をしてみたい	柏倉家でなにか活動してみたい
●●●●●●●●	●●●●●●●●●● ●●●●●●●●	●●●●●●●●

柏倉家住宅について思うこと

●協力隊への問い合わせ先● 伊藤 ☎662-2114（産業振興課） / 稲垣 ☎662-2235（教育課）